



有志竟成

浜松市立北浜中学校
学校だより
令和6年1月12日

校訓：志を強くもってことにあたればついに成しとげられる

「3学期始業式 式辞」

～ 校長の話 ～

始業式では、私の気持ちを伝えきれませんでした。あらためて、生徒の皆さんには、私の気持ちを伝えさせてください。

新たな年を迎えました。本来なら「明けましておめでとうございます」とあいさつを交わりたいのですが、なかなか気持ちの整理がつきません。というのも、元日の夕方、能登半島地震が発生し、今も大変な状況となっているからです。

2学期終業式には、『「よし、やるぞ!」の気持ちで、3学期をスタートさせよう』と締めくくりました。私も、残り3カ月、令和5年度の締めくくりにあたり、生徒が今以上に輝けるためには何ができるのだろうと考えていました。

能登半島地震、全日空旅客機と海上保安庁航空機の接触事故は、「よし、やるぞ!」の気持ちを一転させ、不安や苦しさを増大させました。あんな悲惨な状況を日々見ていると、ただただ新年の抱負を語るというわけにはいきません。ひよっとしたら、身近に関わりがある方がいるかもしれません。苦しい気持ちになります。

始業式では、各学年の代表生徒が、3学期の抱負を語りました。それぞれが前を向いて挑戦する気持ちをもち行動することで、自分の目標を達成したり夢を叶えたりして人として大きく、強くなり、周囲を支えられる人になるのではないかとと思います。

報道では、“水や電気、いわゆるライフラインが途絶えており、不自由な生活への辛さ”を訴える方もいます。“支援物資が届き、人の温かさへの感謝”を語る方もいます。“みんなで声を掛け合い、協力し合って難を乗り越えている”と語る方もいます。いろいろな思いを知ることができます。

これから先、こうした状況下に身を置かれたとき、“どんなに苦しいときにも、強い気持ちで生き抜いてほしい”です。そして、“周りの方々と協力し合って、その場をしのいでほしい”です。もちろん、我々大人が率先して、そうあるべきだと思っています。

“辛いときに人に相談したり、助けを求めたりできる”、“辛い思いをしている人に寄り添い支えられる”、“独りよがりにならず、人を大切にし、感謝できる人になれる”といいです。自分の目標に向かって真摯に努力することで、人としてひと回りもふた回りも成長しましょう。